

自 己 評 価 表

愛媛県立八幡浜高等学校 定時制
学 校 番 号 (34)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
1 創造力 先人の知恵を糧とし、創造する力を身に付けます。 2 決断力 主体的に学びに向かい、未知の状況を果敢に切り拓く逞しさを身に付けます。 3 行動力 自ら考え、判断し、速やかに行動する力を身に付けます。 4 対応力 新たな環境の変化から課題を見つけ、自ら柔軟に対応する力を身に付けます。 5 突破力 分析と改善を重ね、現状の課題を乗り越える力を身に付けます。 6 継続力 自らの目標に向かって、一つ一つ努力を積み重ねていく習慣を身に付けます。 7 構想力 未来の創り手として、考えを体系的に組み立てる力を身に付けます。 8 深化力 客観的な視点に立ち、「何故そうなるか」を深く考える習慣を身に付けます。	1 生徒の多様な進路希望に応じた教育課程を編成します。 2 分かる授業の実践を通して、基礎学力の定着を図ります。 3 主体的・対話的で深い学びの実践を通して、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成します。 4 商業科目等の履修や資格取得を通して、社会で役立つ知識・技能の習得を目指します。 5 キャリア教育を通して、生徒の職業観・勤労観を育成します。 6 全ての教育活動を通して、生徒の豊かな心を育成します。 7 障がいのある生徒、配慮の必要な生徒、不登校の生徒等に対し、家庭や地域・関係機関等と連携・協力しながらきめ細かな指導・支援を行います。 8 学校と家庭・地域・関係機関が連携・協力して、地域社会の発展に主体的に参画する人材を育成します。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	B	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、67%が「成長している」という肯定的な評価をしており、33%が「どちらとも言えない」という評価である。否定的な評価はなかった。	学習指導を充実させるとともに、ホームルーム活動や探究活動、学校行事などにおいても生徒が積極的に取り組むように内容や指導方法を改善し、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
学習指導	確かな学力の育成	生徒が主体的に学習できるよう指導方法を研究するとともに、教材の工夫・改善に努めながら基礎・基本を重視した授業を実践し、学校評価アンケート及び生徒による授業評価アンケート総平均で4.4以上を目指す。	B	教員評価では4.4、生徒評価アンケートの総平均では4.3であるため評価はBとした。保護者の評価は3.9であるが、例年と比較して、授業が分かりやすい、クラスが楽しいといった項目が4.0に伸びている。	クラス内での学力差が大きい、習熟度の低い生徒に対する基礎・基本を重視した授業を実践し、生徒の意欲を高める工夫を施すことで、学習内容の定着を図る。
	言語能力の育成	各教科で言語活動の充実を図りながら主体的に取り組める授業を実践し、学校評価アンケートで該当項目の4.4以上を目指す。	B	教員評価は4.2と昨年度に比べて0.1ポイント低下しているが、生徒評価アンケートでは3.6から3.9と向上しているため評価はBとした。	授業中に自分の考えを発表することが苦手な生徒が多いが、発問を工夫しながら主体性を重視した授業を実践する。
特別活動	学校行事、各種大会への積極的な参加	集団への所属感や連帯感を養いながら各種学校行事、定通制総合体育大会や生活体験発表大会に主体的に参加できる生徒の育成を目指す。	B	県定通総体6名出場、南予生活体験南予大会2名出場など学校行事に主体的に参加することができた。	様々な行事に、主体的・積極的に取り組めるよう、生徒からの要望も取り入れながら行事運営に努めたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	5分前行動を定着させ、規則正しい学校生活を送らせる。	B	ホームルーム担任や各教科担任の声掛け等により、次の授業の準備や切り替えのできる生徒が増えた。	5分前行動の指導を継続するとともに、落ち着いて授業を受けることのできる環境作りに努めたい。
		挨拶を交わすことの必要性や大切さを理解させながら、場に応じた挨拶を定着させる。	B	学年が上がるごとに、日常的な挨拶や職員室入退出時の挨拶ができる生徒が増えている。	学校内での挨拶にとどまらず、日常的な挨拶が自らできるよう、入学時から継続した指導をしていく。
	生徒理解の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：2回以下	A	ホームルーム担任による学期ごとの面談に加えて、必要な生徒にはプラスαの面談を実施することができた。	これまでの担任による指導を継続しながら、教員間でも情報を共有する。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。
	交通安全指導の充実	交通ルールの遵守やマナーの向上により、事故0・違反0を目指す。	A	登下校時の交通事故・違反が0であった。	非行防止教室や日々の交通指導を通して無事故・無違反を目指す。自転車の青切符制度について、講習等を実施し、違反0を目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	生徒の適性と進路希望を踏まえた進路指導の充実	進路希望調査や学びの基礎診断（八定BASIC）により生徒理解を深める。 また、様々な進路情報を適宜提供し、進路への関心を高める。	A	八定BASICを実施し、過年度比較した。 全学年に対してパンレット配布等で情報提供を行い、進路への関心を高められた。	継続的な情報の提供と、就職に関する指導・支援を強化する。
	生徒の希望進路の実現	保護者等やハローワークとの連携を深めながら、生徒の実態に応じて就労を支援する。 進路に対する意識啓発や個別指導を行い、進路決定100%を実現する。	A	キャリア教育講演会等を実施し、意識啓発や進路実現に向けての取組を行った。卒業予定者の進路については、保護者等と連携を図り、本人の希望に沿った進路実現に向けて取り組むことができた。	引き続き、就労への主体性を持たせる意識啓発を行う。 進路補習の方法を検討する。
人権・同和教育	人権意識の高揚	研修に積極的に参加し、得た情報を共有・活用して生徒の人権意識向上を図るとともに、自身の指導力向上に努める。	B	校内外の研修に参加し、得た情報を生徒への人権・同和教育に生かすことができた。校外研修の内容を職員全体へ還元する機会を十分に設けることができなかった。	校外研修に積極的に参加し、そこで得た情報を共有して、生徒の人権意識を高められるように努める。
保健管理	健康意識の向上	養護教諭と連携して、「保健だより」を発行し、健康の保持増進を図る。 手洗い、うがいや手指消毒などを徹底させ、健康への意識向上を図る。	B	毎日の自己の体調を記録することで健康への意識を向上させることができた。健康教育では八幡浜保健所の協力で、食育教育を中心に研修することができた。	引き続き食や運動の重要性を理解させ、バランスのよい食事を摂取することが健康の保持増進につながることを理解させる。
安全管理	防災意識の向上と緊急時の対応	各学期の防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底するとともに、定期的に防災関係の情報を提供する。	B	防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底させることができた。	定期的に情報提供を行うとともに、災害に対する備えを徹底させる。講習会等を通して、実践できる力を身に付けさせたい。
特別支援教育	校内研修会の実施	各種研修会報告で得た情報を全教員が共有して特別支援教育に対する理解を深め、実践力を高める。	B	特別支援教育に関する情報を教職員間で共有し、理解を深めることができた。	各種研修会で得た情報を全教職員で共有して、特別支援教育に対する理解を更に深める。
	生徒の実態把握及び関係諸機関との連携	少人数のメリットを生かし、生徒一人ひとりの実態把握を早期に行う。 関係諸機関と連携して生徒の実態に適した支援の実践に努める。	B	生徒の状況についての情報を教職員間で共有して、連携しながら支援の実践に努めることができた。	必要に応じて関係諸機関と連携し、適切な支援が行えるようにする。
研修	教職員の資質の向上	校内外の各種研修会に積極的に参加し、研修内容を教員間で共有する。 ICT機器を積極的に用い、ICT活用能力の向上を図る。	A	全教員が各種研修に参加することができた。 また、ICT機器の活用法を模索しながら、授業力の向上を図ることができた。	各種研修会等への参加を促し、資質の向上に努める。ICT機器を積極的に活用して、ICT機器を用いた指導力の向上を図る。
保護者等との連携	広報活動の充実	「八定だより」や「保健だより」、学校ホームページを通じて、教育活動に関する情報を提供する。	A	毎月「八定だより」を発行し、随時ホームページを更新して、学校での生徒の様子を情報発信することができた。	「八定だより」とホームページの内容を充実させ、教育活動に関する情報を随時提供しよう努める。
		普段から保護者等との情報交換に努める。 また、保護者等懇談会や家庭訪問、学校行事等を通して学校と家庭の連携を図る。	B	家庭訪問や保護者等懇談会を実施するだけでなく、普段から保護者等との連絡を密にし、学校と家庭との連携を図ることができた。体育祭には多くの保護者等が参加していただいた。	普段から保護者等との連絡を密にし、家庭との連携を更に強化する。また、学校行事等の連絡を早めに行い、保護者等が参加しやすい状況づくりに努める。
業務改善	適切な勤務時間と休暇取得による働きやすい職場づくり	休息時間を確保したうえで教職員の勤務時間を守り、休暇をとりやすい環境をつくる。 全教職員が年間7日以上休暇を取得し、心身のリフレッシュに努める。	A	休暇を取りやすい雰囲気を作り、全教職員が7日以上休暇を取得することができた。	長期休業中の休暇に加え、平日の時間休暇を取りやすい状況及び雰囲気づくりに努める。
	職場環境の整備	健康相談等を定期的に行い、業務の均等化や教職員の肉体的・精神的疲労の軽減を図る。 職員室の整理整頓に努め、毎月1日の職員室清掃日を設ける。	B	互いに協力して業務を行うことができた。日頃から整理整頓ができているが、職員室清掃を実施できない月があった。	年間行事において、職員室清掃日を予定しておく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。